# 実践５　短期研修におけるポテンシャル分析の技法を用いたワークショップ

竹林地　毅
（知的障害教育研究部重度知的障害教育研究室）

## １．実施概要

⑴　実施した研修
　平成15年度短期研修（知的障害教育コース）
⑵　講義題目等
「養護学校・特殊学級からの支援」
⑶　内容
　先進的な事例の紹介やワークショップ形式での協議により，養護学校・特殊学級が地域または校内におけるセンター的役割を果たすための支援について考える。また，話し合いやグループワークを通じて，パートナーシップづくりの体験をする。
⑷　日時
　平成15年５月８日（木）９：15～16：15
⑸　参加者
　短期研修員71名，長期研修員６名，研究所員５名，実践報告者２名（養護学校１名，特殊学級１名），ファシリテーター１名合計85名

## ２．日程・活動内容

９：15　目的・日程説明
　支援について考えるときには，企画力が求められる。企画の手順には，「問題点の整理」と「問題点の共有」があること，ポテンシャル分析を体験しながら，先進事例からのヒントを得て，企画力を高めることを目的としていることを説明。
９：25　アイスブレーキング
　ア：体を動かすゲームを通じた緊張ほぐし
　　〇参加者でフロアーに日本地図を作成して，都道府県名，学校名を紹介，等。
　イ：自己紹介や他者との交流を兼ねたゲーム
　　〇デートゲーム
　　〇自己紹介シートによる紹介
10：45　休憩
11：00　ポテンシャル分析
　ア：「センター的役割」の機能を紹介し，概念の共有を図る。
　　〇教育相談
　　〇指導（自校以外の場所での指導）
　　〇情報提供
　　〇研修支援（研修講座）
　　〇実践研究（共同研究）

　　〇コンサルテーション（他機関への支援）
　　〇施設・設備の開放
　イ：ポテンシャル分析の目的の再確認
　　〇強みと弱みの把握
　　〇問題点の整理
　　〇問題点の共有
　ウ：センター機能に関する自分（自分の所属する組織）の長所（強み）と短所（弱み）
　　〇強みと弱みは，「施設」「ソフト（プログラム）」「人（スタッフ）」「地域（関係性）」「ネットワーク（パイプがあるところ，情報をもらう人，助けてくれる人）」の視点から考える。
　　〇自分の強みとは，「ほめられたこと」「いいねと言われたこと」。
　　〇自分の弱みとは，「困ったこと」「怒ったこと」。
　　〇書いたものをグループで回し読みして，気づいたことを自分のシートに加える。
　　〇シートに記入したことを簡単な言葉，またはキーワードで抜き出し，付箋紙に記入。

| 強み | 提供できること |
|---|---|
| | 目標 |
| | 挑戦したいこと |

| 弱み | 問題点 |
|---|---|
| | |

図　「強み」「弱み」分析シート

12：05　午前中の振り返り
12：15　昼食
13：15　アイスブレーキング
　　思考指向の切り替えを図り，活動への導入を図る
　　〇クイック・チェックによる自己紹介。
13：30　ポテンシャル分析の整理・共有
　　参加者個人が分析した問題点をグループで整理して共有する。
　　〇午前中に記入した付箋紙の記入内容の見直しをする。
　　〇付箋紙を模造紙に貼り付ける。

同じ項目毎に近い場所にまとめていき，研修員個人の問題と全体に共通する問題を整理して，曼陀羅状の図を作成する。

14：20　全体での共有
14：40　休憩
14：55　実践報告①「養護学校での実際」
15：25　実践報告②「特殊学級での実際」
16：00　一日の振り返り，終了

## ３．まとめと考察

参加者の感想メモの記述のうち，ワークショップ形式での会議，ポテンシャル分析に関することを整理し，考察する。

⑴　ワークショップ形式の会議について

・アイスブレイクで今の自分の緊張や不安に改めて気づかされ，ゲームを楽しむことで体の力が少し抜けた感じがする。人と人とが協力し合って一つのことに向かっているのは楽しいと思った。
・研修が始まって１週間なので，緊張がほぐれ話しやすい雰囲気になった。場の雰囲気を和らげるのに効果的だと思った。
・ファシリテーターの話し方に思わず引き込まれただけでなく，その場にいる人とつながりを持とうとしている自分に少し驚きを感じた。
・ワークショップのファシリテーターが存在し，この研修に参加することに驚いた。ファシリテーターが常にテーマからそれないように配慮され，助かった。
・アイスブレイクのゲームは，他校の生徒との合同学習，校内の行事での通常学級の生徒との交流などで活用できると思った。
・日本地図をつくって，色々な所から人が来ているのを実感できた。この研修で全国へのネットワークができることが目に見える形で示された気がした。
・教職員の増加に伴い，小・中・高の連携を密にする必要性があり，アイスブレイクの活動は，学校でもしてみたい活動だった。

記述された内容は,「アイスブレイクの必要性と有効性」「ファシリテーターの必要性と有効性」「ワークショップ形式の会議により，ネットワークづくりが期待されること」の気づきであった。

⑵　ポテンシャル分析について

・自分の考えをまとめる作業がスムーズに運んだ。センター的機能については，自分の意見や判断を持てずにいたが，具体的に考えることができた。
・新しいことについての意見をまとめることは，煩

雑になりがちで，会議を敬遠されてしまいがちだが，大変効果的なので自校の研修で活用したい。このような考え方，話し合いの進め方の技法を体験的に学ぶことは，とても参考になる。
・カードに考えを書くのは，人の考えがしっかりと見え，発言もしやすく効果的だと思った。最後に模造紙に整理して見える形で残るのがいいと思った。終わったあとの充実感は大きい。
・意見を持ち寄り考えを進めることは，一人一人への刺激になるし，発見でもあると思う。色々な立場の人が，それぞれの考えを遠慮なく出し合える良い技法だと思った。
・学校では自分の仕事に追われ，学校全体の組織，地域への貢献などについて，あまり考えていなかったことに気づいた。自己分析は大切なことだと思った。
・最後に，自分の組織の問題点として挙げたことが，他の人が提供できることで解決できることがわかった。思ってもみなかったことだった。
・ポテンシャル分析をして，あらかじめ自分の学校の強みと弱みをまとめておいたので，実践報告を聞きながら，自分の学校でできることを具体的に思い浮かべることができた。
・今まで自分の組織を客観的にみることができなかったので，こういう見方ができることを整理できた。この演習を県内の養護学校全部でしてみると，学校それぞれの資源を共有できたり，共通の問題を考え合ったりでき，教師のネットワークづくりにもつながると思った。
・強みの事項にうらやましいと思うことが多くあった。また，弱みはみんなよく似たところで悩んでいるのだと思い，励まされた気がした。
・養護学校と小学校の環境（施設，ソフト，人等）がだいぶ違うことを実感した。特殊学級の弱みが養護学校では強みであることが多く，養護学校が提供できる材料の多さに驚いた。特殊学級は孤立しがちなので，養護学校と小・中学校の特殊学級担任との協力，ネットワークの在り方がポイントになると思った。
・自分の学校では提供できるものは何もないと思っていたが，いくつかの視点で強みと弱みを分けて書き出してみたり，他の人の書いたものを見て，強みが結構あることに気づかされた。
・挑戦したいことを書いているうち，研修で得たネットワークを生かしていきたい気持ちが強くなった。
・教師にも企画力が求められることを常々感じていた。ポテンシャル分析をやって校内のイベントを企画すれば，かなり目標が明確にされるのではないかと感じた。

記述された内容は，「企画（議論）を進める技法の必要性と有効性」「話し合いの技法を学ぶことの必要性」「会議のプロセスを明示する技術（板書，カード）の有効性」「異なる立場の人がそれぞれ視点を変えてとらえることの有効性」等であった。

⑶　考察

ポテンシャル分析の技法によるワークショップは，参加者にネットワークづくりにつながる創造的な会議への指向を促し，会議の技法の学びへの動機づけを高めたといえるだろう。